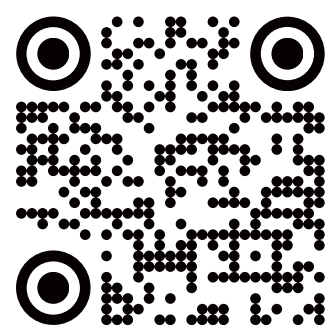


November 14 (Sat), 2026
15:00 - 17:30グラフィックデザインの標準と創造：
ピクトグラム／ピクトグラフ／シンボルKyushu University, Ohashi Campus,
Design Common 2F2026年11月14日 | 土 |
15:00-17:30会場：九州大学大橋キャンパス
デザインコモン2階
参加無料・一般公開※QRのWebサイトより
参加登録をお願いします

BASEL SBB (2)
Muttenz
Pratteln *Liestal VI 102*

Augst
Rheinfelden
Möhlin
Mumpf
Stein-Säckingen Koblenz.

Berlincourt(Bern)
Berlingen (Thurg)
Bern (Bern)
Bern Trans.
Bern-Bundeshaus
Bern-Kornhaus
Bern-Kramgasse
Bern-Beundenfeld
Bern-Felsenau
Bern-Holligen

Biaufond (Bern)
Biberbrücke (Schwyz)
Biberist (Solethurn)
Bibern (Schaffh.)
Bibern (Solethurn)
Biberstein (Aarg.)
Bichelsee (Thurg.)
Bichwil (St. Gallen)
Bidogno (Ticino)



Wibbo Bakker

デザイン研究者／デザイン・トラスト・グラフィック・アーカイブ研究員、
香港デザイン学院研究フェロー

デザイン研究者として、組織、インフラ、コミュニケーションシステムにおいて視覚的シンボルがどのように機能するかを研究している。1960年代から1970年代にかけてのオランダにおけるビジュアル・アイデンティティ・デザインに関する研究により、ユトレヒト大学で博士号を取得した。それ以来、シンボル、ウェイファインディング、国際規格に関する研究を行う傍ら、XJTLU・SUSTech 准教授をはじめ、工業デザイン分野での教育・研究活動にも携わってきた。直近では、香港デザイン学院の「デザイン・トラスト・グラフィック・アーカイブ研究フェロー」を務めた。現在の研究は、デジタルインターフェースにおけるアイコン・エコシステムのガバナンスと進化に焦点を当てている。



伊原久裕 / Hisayasu Ihara

九州大学 名誉教授

アイソタイプ、情報グラフィックの歴史と理論を主なテーマにグラフィックデザイン史を研究している。GK イングストリアルデザイン研究所でデザインの実務経験の後、九州芸術工科大学に在職、その後九州大学大学院芸術工学研究院に勤務、2024年に同大学を退職。その後もピクトグラム、20世紀グラフィックデザイン史についての研究とグラフィックデザインの実践を継続している。



児山啓一 / Keiichi Koyama

株式会社アイ・デザイン 代表取締役

日本の公共空間におけるサイン計画、案内表示、ピクトグラムのデザインを長年にわたり牽引してきたサインデザイナー。1992年、村越愛策デザイン事務所の代表取締役を継承し、1997年に株式会社アイ・デザインへ商号変更。鉄道駅や空港をはじめとする公共交通施設、公共空間のサインシステムを数多く手がけ、ピクトグラムや案内表示を実際の社会環境へと実装してきた。国籍や言語、年齢などの違いを越えて「誰にでもわかりやすく伝える」ための視覚情報のあり方を、デザインの実践を通して追究している。著書に、世界各地のピクトグラムを収集・解説した『世界ピクト図鑑』など。